

令和7年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 教育目標 自立性のある子供 元気にあそべる子
2. 本年度の重点目標 (学校評価の具体的な目標や計画)

他園の教員対象のECEQ公開保育に向けて、園内研修を充実させ自園と自分の保育について見直し、園全体の幼児教育の質の向上を目指す。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

<※評価点はA(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)>

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善点	評価点	意見
I 保育の計画性	A	子供の発達に応じた保育計画をたて、準備をしっかりとって保育ができた。今後も子供の発達や興味に合った保育を計画実践していく。	A	先生達が園の教育方針や教育課程を理解し、子供の発達に応じた保育計画を立てているため、計画的な保育ができています。
II 保育の在り方・幼児への対応	A	子供ひとりひとりの思いや個性に応じた対応を心掛けることができた。怪我や事故について、反省点を共有し園全体で怪我や事故を防止する対策をしている。	A	どの先生も、子供達が過ごしやすく、安全に過ごせるような環境づくりに努めている。怪我をした子がいることを反省している先生もいるので、怪我や事故については引き継ぎや対策を怠らないようにして欲しい。
III 保育者としての能力や良識・適正	A	新たなスマート保育士という資格取得に向けて研修を受けたり、園内外の多様な研修等で勉強する機会が多かった。	A	スマート保育士という資格取得にむけ研修をうけるなど多様な形で専門知識を身に付けた先生が多かった。今後も色々な媒体を使って自らの資質、能力を伸ばしていけると良い。
IV 保護者への対応	A	安心して幼稚園に通ってもらえるよう、子供の様子を伝えながら保護者の方としっかりコミュニケーションを取っていくよう心掛けた。	A	保護者に子供の様子を具体的に伝えてコミュニケーションを取っている先生が多く、保護者から信頼されている様子がわかった。今後も保護者との信頼関係を子供達と同様に築いていってほしい。
V 地域の自然や社会との関わり	B	登降園時に地域の方へ挨拶を積極的にしている。年長の担任は小学校との連携を取っているが、その他の学年はなかなか関わる機会がないので保護者に卒園児の様子を聞く等、小学校について自ら情報収集していきたい。	B	年長組担任の先生たちは、小学校見学や進学について小学校の先生と話す機会もあり、小学校との連携ができています。それ以外の先生達も小学校と積極的に関わっていくと良いと思う。
VI 研修と研究	A	ECEQ研修を通して、自園や自分の保育について見つめ直す良い機会を持てた。	A	ECEQ研修が、先生達の良い刺激となり更なる保育の質の向上が期待できる。

4. 本年度の重点目標の総合的な評価結果

ECEQの研修や公開保育を通して、自園や個々の保育を見直すことができた。これから取り組みたい課題、目標が出来たので今後の保育の質の向上に活かしていく。

5. 今後取り組むべき課題

地域との関わりや小学校教育への理解が少ない先生もいるが、浜松市の大学の教職員と学生が取り組んでいるSTEAM研究に携わり、スマート保育士の認定資格を取得した先生を中心に園でもプログラミング教育を行う。小学校でも推進しているプログラミング教育への理解を深めていきたい。